

羣書類從

百八十一

庫文閣内			
三 函	六 六 六	八 六 九	和 書
架	冊	號	類

庫文閣内			
二 五 函	六 六 六	八 六 九	和 書
架	冊	號	類

内閣文庫		
番號	和 18690	
冊數	666(241)	
函號	215	3



群書類從卷第百八十一

檢校保元一集

和歌部三十六卷

群書類從

天德四年三月廿日己巳此日有女房等合書

本殿八月廿日有御書合時與御書合時御書相

御書關文書女房合和等及合書等御書在右

就中以是夜御書及御書等御書在右

御書及御書等御書等御書在右

御書及御書等御書等御書在右

群書類從卷第百八十一

淺草文庫

檢校保己一集

和歌部三十六歌合二

内裡歌合



天德四年三月卅日己巳此日有女房哥合事者去
御記
秋八月殿上侍臣鬪詩合時典侍命婦等相語云
男已鬪文章女宜合和哥及今年二月定左右方人
就中以更衣藤原脩子同[]等為左右頭各令排
讀蓋此為惜風騷之道徒以廢絕也後代之不知意
者恐成好浮華專内寵之謗仍具記之其儀暫撤却

清涼後涼兩殿中渡殿北蔀設公卿座於同渡殿之
 內鋪左右方人座於後涼殿緣東左在南女房又相
 分候清涼殿西庇簾中第五間立倚子右在北
 簾申剗就倚子良久右方入自北方獻和歌洲濱倚子此間上
 物花足淺香下机繡花柳鳥花文綾覆綺地敷更衣押
 之童女四人卑之進御前渡殿筭刺洲濱置北小庭
 筭刺小舍人回暫左方經侍所自南方獻和歌洲濱
 座之前云々紫檀押物花足籜方下机繡葦手花文綾覆綺地敷
 更衣之童女六人卑出如右筭刺洲濱又置南小庭
 之小舍人回座前始童仰令召殿上公卿即左大臣實賴
 女□机下後改置云々大納言源朝臣高明右大將藤原朝臣師尹參議雅
 信朝臣朝成朝臣參來候座次各方人侍臣著座于

時日已昏供燈兼立篝火於南北小庭令召可讀歌
 人左方左兵衛督延光朝臣右方右中將博雅朝臣
 進就洲濱下讀其和歌左作金山吹花枝其左近少
 將伊涉右近少將助信等取脂燭照之殿上舍人著
 小庭座刺筭左大臣評定于時各方賜饌於公卿及
 方人讀歌之中左詠鶯哥二首而右誤讀柳哥仰依
 失次為負惣廿首讀合已畢左勝負九比讀哥終令
 召樂所人相分南北小庭進奏哥曲大臣彈箏大納
 言源朝臣彈琵琶此間盃酒頻巡絃哥無斷大臣起
 座獻酒及遲明賜大臣以下祿有差大臣夏裝束一襲大納言白合

御衣一重參議白單平日起座入內侍臣退出此曉

重御衣自餘足緝霜降近臣云累霜氣寒人恠時序年違云々四

月三日未刻之飛香舍以哥合洲濱給中宮還來西

剋左洲濱給昌子內親王

殿上日記天德四年三月卅日女房有哥合之事此事始自今

月上旬先被書分左右人以更衣為左右頭相分典

侍掌侍命婦藏人等為方人矣同月十九日相分侍

臣點定方人藏人頭伊尹朝臣當日早且藏人所雜

色以下參上供奉御裝束其儀西廂皆懸新御簾納

壽殿御宿也第五間渡殿立御倚子大盤所南方立御仁几

帳立置物机立御座間南四間垂御簾為左方女房座矣

北二間同垂御簾為右方座焉御前渡殿南北各敷

綠端疊三枚為公卿座也後涼殿東小篔子敷從渡

殿南北相分敷長疊為左右侍臣座也南北小庭各

敷疊三枚為樂所召人座此等鋪設申二剋出御

召左右哥於是右方侍臣等令持洲濱二机一置哥

應召參上從御路殿西邊獻御前先童女一人執地

敷淺縹浮出進鋪御座乾角高欄下還却之後同童

女四人其裝束著早洲濱立地敷洲濱之為躡沉入

銀筋其覆花紋綾青末濃加柳折枝之繡文机四角

以金銀作柳枝四莖便為覆臺也有足結總但無帶

卷百八十一

洲濱之中神妙為竭人取鳥獸水樹巖石皆其所用
 無不金銀沉香等類所獻哥以色紙書小字詠花樹
 哥令結其樹枝題好介又令持其鳥嘴至于春初暮
 春首夏戀望之間或在人手或載漁舟摠二十首隨
 宜分次小舍人藤原實正執金銀花柳枝下居玉砌
 置也傍指次小舍人二人藤原實明三善興光摠
 傍也指次小舍人二人皆著青色柳襲也昇負
 指洲濱置實正前頃之左方從殿上侍方參上童女
 一人先執地敷紫地鋪御座坤角如右方次童四人
 昇洲濱立地敷洲濱之樣大躰同右紫檀机蕚芳下
 文有帶無總其中銀霍舍欵冬一枝黃金次又童女
 作八重花青銀作數片葉每葉各書一首有花紋綾
 執員指洲濱參入此洲濱野水躰也無机有花紋綾
 也小舍人藤原宣賴紀延方等皆著赤於砌下取傳

置員指座前次殿上公卿依召參入左大臣大納言
 藤原朝臣雅信朝臣朝源朝臣右大將
 成朝臣等也北南面也左右方頭并備衝重各給公
 卿并男女方人殿上五位取傳給之於是召出左方
 延光朝臣右方博雅朝臣令講各方獻哥延光朝臣
 手執花枝口詠艷藻博雅朝臣披講之間誤失次第
 方人遺恨尤在斯言詩不言乎白評定之間鐘漏頻
 珪之缺尚可磨焉其今日之謂欵評定之間鐘漏頻
 移勝負之次坏酌互勸今日之事左方多慰又御厨
 子所供御菓子干物等陪膳重臣依例又召樂所人
 人於砌下左右相分侍席勝方先吹笙笛初奏調子
 先是殊降綸命書分御遊左則大臣彈箏朝成朝臣
 之哥曲左右之召人也

吹笙方人侍臣樂所召人陪砌下實利朝臣富門各奏所能等
 右則大納言源朝臣彈琵琶雅信朝臣拍子侍臣并
 召人藤原清遍占部方座等同侍右庭絃哥如左唱
 絃管箏瑟曲調侍臣等密語曰每万機之暇景瑟命
 仙欄之御遊然歡樂之至未如今夜者也快醉雜興
 難禁左大臣賜夏御衣一襲青色御衣藤芳御下襲
 御大納言己下侍臣召人等給祿有差大納言白細
 單重細長一領四位五位不論殿上地長一襲參議
 下拜腰以白絹六位小舍人皆拜赤絹東方漸明尊
 儀入御大臣以下哥舞退出之

肉裏歌合 天德四年三月廿日

題

霞 鶯 柳 梅 欵冬

菱 善喜 首夏 卯花 郭公

夏夏 恋

詠人

左 右

朝忠卿 平兼盛

坂上望城 藤原元真

大中長純宣 中勢

卷八十一

五

少貳命婦

後原博古

壬生忠見

清原元補

源順

本院侍從

議師

左

右

延光朝臣

博雅朝臣

判者

左大臣

右大臣

左

右

中將更衣

辨更衣

宰相更衣

按察更衣

後典侍

檮宰相

少貳命婦

少納言命婦

右近門命婦

右近門命婦

右近命婦

美濃命婦

左近命婦

越後命婦

兵衛藏人

侍從藏人

兵庫藏人

質作藏人

冬河知人

鞠負知人

侍從知人

源為明

源重信

源重光

源延光

源伊尹

源保光

藤忠君

冬部知人

木上知人

宮内知人

源實明

源博古

源賴忠

藤文範

清原元補

源國光

藤兼家

平時經

源伊海

源為光

源守仁

藤源時

平孫材

源守補

源時仲

童

左

藤助信

源清遠

大江孫光

源安親

源清主

藤永保

藤雅材

源忠光

右

平保遠

後元明

源時明

実正

藤道隆

後朝光

後為時

後保名

後景舒

義理

後惟賢

能正

後信賴

延正

一番 震

左勝

朝志

くく橋の山はひよりまきまきとていふは

右

兼盛

ゆきまのりまきまきとていふは

右右神禰合勅小信曰可定卷勝方者遠巡奏

云小信終難備三十一字全難辨勝方者我伏

請天裁勅云若不定勝方者已矣今日興業結

後代檣欵猶速可定申者遇天氣不許表空

慮と拙而已たすくく山と年とは心と心

事より又くく山と年とは心と心

せんふたふまひもさしてあるあん右ふたふま

きくく山と年とは心と心

後一草中此間只在勅定小旨屢候天
氣遂無左右作因以た為勝

二番 當

左勝

順

おやうたはと海しぬ妻は谷風ようしちりけぬき

右

兼盛

わの者よ愛のつて写あるに庭もつてはあやちん

たふんといふおう右ふしちりぬあちん

もいふの奥あへおとるを後しあさしたる

勝

三番

左勝

朝忠

よの者の梅う枝ちんつていふのなはあちん

右

兼盛

とらひぬりいそめあつるを柳枝よをさつと妻あひを

あつていふと庭いふ柳とよみく海

白ゆめをうつるをぬ梅う枝よいまをいふはけるとあ

たへてよおとせといふとやいきしてあやせ

右講師博雅朝長親儀柳歌左方痛々須儀申

當得而強強申柳哥於今者不可強申歎者以

左方編申旨奉聞作云可校定申者小旨奏云
左方之所申非無謂如此之事只隨時之議但
依人之誤何留其執依令後申其時博雅朝臣
頗愛色速不續之終雖談揚其音振彼為友人笑
又方の初より心とまたとなくとせしむる
たう仍遂為負

田番 柳

た

望城

あまのつとむと魚のまき柳の東のつとむのまきと魚のつとむ

三右衛門

兼盛

さほ姫のいそめめりまき柳とあまのつとむとまき柳とあまのつとむ
欲後右哥之問左方人申云伴柳歌遠望次
後申先年而守欲後之似忘首尾者小旨答云
當分之時隨左申已有裁許重不可申者左方
いそめまのつとむと魚のまき柳とあまのつとむとまき柳とあまのつとむ
させふあまのつとむと魚のまき柳とあまのつとむとまき柳とあまのつとむ
難と云ふと仍以右為勝

み番 楊

左 膳

朝忠

いそめまのつとむと魚のまき柳とあまのつとむとまき柳とあまのつとむ

右

元補

まあると并るの川あをさくくうんえとあらしの波

右

兼盛

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

九番 後

左

朝忠

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

右橋

兼盛

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波あらしの波

類聚六十一

十一

何とと沙流るもさうようさゆのよ長同
源大納言云尤艶也暫持と擡る皆古事申云た
可藤波水ようととらうとと愁申事理可然仍
以右為徳

十番 暮春

左勝

朔忠

花さゆらちとわらう春さふらとわらう
古 博古

初春は海りさるるおあさつとわらう
たさ首尾おしりさるるおあさつとわらう
右

洞たさるるさるるさるるさるるさるる

左為徳

十番 首夏

左者

能宣

おくさるるさるるさるるさるるさるる
右 中勢

なるそたちあもさるるさるるさるるさるる

たのさるる夏のゆおあさつとわらう
さるるさるるさるるさるるさるるさるる
も何さるるさるるさるるさるるさるる

何れおれ方へ申すおれ申す申す

十二番 卯花

左

忠見

道遠人へおれ申すおれ申すおれ申す

右

兼盛

何れおれ申すおれ申すおれ申す

左 山内卯花へおれ申すおれ申す

おれ申すおれ申すおれ申す

十三番 郭公

左

望城

何れおれ申すおれ申すおれ申す

右

兼盛

深山へおれ申すおれ申すおれ申す

左 右へおれ申すおれ申す

十四番

左

忠見

おれ申すおれ申すおれ申す

右

忠見

おれ申すおれ申すおれ申す

左 右へおれ申すおれ申す


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

十六番 夏草

左勝

忠見

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

右

兼盛

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

仍以左為勝

十六番 意

左勝

朝忠

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

右

中務

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


たふく建たるものうへに奉と建の何なりとあるは
よいといふことお申せしるふ仍以左為勝

十七番

左勝

能宣

急しとちうははるしなりさしきりては念之とめぬを九

右

中務

君を心やうはつまのうへひあしうふ月日なるを

左が願有精仍為勝

十八番

左お

中院侍従

人をいふをまつたはるしなり形やうを命とつて

右

中務

おたふたふの月とちうあしきりては念之とめぬを

左右もにさしはつたはるし右がのう下めり右も

しおあし文字うあつとけしとてさる

急なり奉とれ左右の作なりたのしやたはる

急しとちうははるしなりさしきりては念之とめぬを

めしとちうははるし

十九番

左勝

胡忠

水うしはくも志らう総乃はるあさくたさあまの
 の山ゆは浪の舞あまあひさしはるあまをさあま
 皇の志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 はくも志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 らあまの志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 うちあまの志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 一のまらあまの志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 相言源朝信右乃大將より原の朝信はるあまをさあま

海さあまの朝信より原の朝信はるあまをさあま
 はるあまの朝信より原の朝信はるあまをさあま
 うちあまの志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 一のまらあまの志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 相言源朝信右乃大將より原の朝信はるあまをさあま
 うちあまの志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 一のまらあまの志をはくも志らう総のまらあまをさあま
 相言源朝信右乃大將より原の朝信はるあまをさあま

とうろのりつらんおそらせくひくわんわん
 又うじとちあわらうあよりそまふたお言はハ左の
 のさうせく一ころも大納言廿ハ志ろをけやせん
 ろたうひらふらひおきさらはにせくよんわんわん
 なる殿とまゐのそくはハあ〜ま〜たハまはり
 くひらめさるはつとくはせくひく連あつまを
 しむよりのちハなをそののれり〜
 かくをそくをせとのつらを物りかろ〜
破上日記雜記取方人〜中依無名就化日録書入
 三月二日たお方人方〜をを〜
 してあ〜の頭〜

月廿五日よりへのころう〜おせあま〜る
 ころの日きいをあま〜の〜
 清前も〜おせら〜

春の巻
 うぢ花
 初の巻
 お〜
 春の巻
 お〜
 うぢ花
 お〜

おく〜うぢ花の〜の時清原殿あり〜
 とも〜の〜を〜後清原殿あり〜
 た〜の〜は〜し〜あ〜む〜あ〜あ〜

のういひぬハ治部のとの勢はとの母をなは勿
 物をとのまはりの雙又調よとの何もたらし
 あらはしとの右おあ一調よとの人あとの
 はまあいとのとのとのとのとのとのとのとのとの
 何もとのあいとのとのとのとのとのとのとのとの
 のあいとのたらぬとのはとのはいとのとのとのとのとの
 上のとのとのとのとのとのとのとのとのとの
 ちととのとのとのとのとのとのとのとのとの
 日ととのとのとのとのとのとのとのとのとの
 とのとのとのとのとのとのとのとのとのとの

のういひぬハ治部のとの勢はとの母をなは勿
 物をとのまはりの雙又調よとの何もたらし
 あらはしとの右おあ一調よとの人あとの
 はまあいとのとのとのとのとのとのとのとのとの
 何もとのあいとのとのとのとのとのとのとのとのとの
 のあいとのたらぬとのはとのはいとのとのとのとのとの
 上のとのとのとのとのとのとのとのとのとの
 ちととのとのとのとのとのとのとのとのとのとの
 日ととのとのとのとのとのとのとのとのとの
 とのとのとのとのとのとのとのとのとのとの

身を絶つるのふしある事
 子代にちよんくあせりてあはれ
 三浦のたけやあきつるに
 君代天の羽衣まわし
 友乃花色ゆふくあはれ
 名残をいふはあきつるに
 天徳四年三月廿日
 前合乃又ははとあきつるに
 宰相右衛門督朝長
 志願のふしあるに

〆ー 朝忠宰相

〆ー 志願のふしあるに
 〆ー 宰相右衛門督朝長
 〆ー 前合乃又ははとあきつるに
 〆ー 名残をいふはあきつるに
 〆ー 友乃花色ゆふくあはれ
 〆ー 君代天の羽衣まわし
 〆ー 三浦のたけやあきつるに
 〆ー 子代にちよんくあせりてあはれ
 〆ー 身を絶つるのふしある事

